「みんなねっと精神科医療への提言」 Part 4

4．当事者の視点を大切にする精神科治療へ

① 薬物療法を受けた本人の意見の尊重と治療・研究への当事者・家族参加の推進
～薬物療法の改善・創薬へ活かす

薬を実際に飲んでいる当事者の服薬を通した体験、そして当事者とともに暮らしている家族からの声を、薬物療法の改善や創薬に活かしていくことを求めています。また、当事者・家族と研究者が対等に意見を交わせるような研究環境の整備を求めています。

② 身体的ケアの重視～身体的健康無くして精神的健康無し

精神疾患になると、その影響により自分自身の身体的健康に注意を払ったりその維持に努めることが難しくなります。診察で、精神症状だけではなく身体的ケアにも留意する精神科医療であることを求めています。

③ 診断名による混乱の是正を～診断名の伝え方に配慮し診断体系の見直しを

いまだ精神疾患の原因は解明されておらず、科学の進歩に応じて診断体系の見直しも始まっています。精神科を受診するたびに診断名が変わり混乱した、という経験を持つ当事者・家族は少なくありません。診断名を伝える際にこうした事情を医療者がまず当事者・家族に説明すること。そのうえで、ひとり一人の患者さんごとの症状や経過の特徴を明らかにし、診断名が当事者ごとのより良い治療に結びつくものとなるよう努めることを求めています。

Check!

精神疾患の原因や治療法など、現在もまだ解明の途上です。医師も製薬会社も、誰しもまだ間違いのない「答え」など持っていないことを認識することが必要だと感じます。そのうえで、研究の旅路では当事者の声が大切になってくるはずです。適切な科学の発展のためにも、実際の精神科医療ユーザーがしっかりフィードバックを行なえる仕組みづくりが求められています。（増山）

以上、４回に渡って「みんなねっと精神科医療への提言」を紹介してきました。

詳細はみんなねっと（全国精神保健福祉会連合会）のホームページにも掲載されています。また、紹介した４項目以外にも、「入院中心から地域医療への転換を」として、長期的展望からの具体的な目標の提言も書かれているので、ぜひ確認してみてください。